



務

土木學會誌 第十一卷第一號 大正十四年二月

- 大正十三年十一月二十四日土木學會高速度鐵道調查委員會第九回特別委員會を開き大河戸主査、田中、西、平井、物部、山崎の各委員沼田幹事野坂囑託出席す
- 同年同月二十六日編輯委員會を開き金森委員長川口、野口、平井、山崎の各委員沼田囑託出席會誌編輯上に付協議を爲せり
- 同年十二月四日役員會を開き中山會長丹羽副會長稻垣、太田、川上、後藤、竹内、八田、伴の各常議員中原、廣井、古川の各前會長井上、丹治兩主事金森編輯委員長野口、平井兩編輯委員出席中山會長議長席に着き下記事項を決議せり
 - △定時總會は大正十四年一月十七日午後三時半より帝國鐵道協會に於て開催すること
 - △工學會より照會に係る會館建築の件に對し本會専用事務室として三十坪物置として六坪を要する旨回答を爲すこと
 - △會費怠納者會員一名准員八十一名學生員七名に對し本會規則第十三條に依り特權を停止すること
 其他會務に關する事項
- 同年同月十六日土木學會誌第十卷第五號發行成規の届出を爲し同十八日各會員に配付せり
- 同年同月二十二日土木學會震害調査委員會第一部會第九回委員會を開き安藝主査、石川、金森、清水代(水野)、田村、藤田、眞島の各委員沼田幹事出席す
- 同年同月二十四日編輯委員會を開き金森委員長、野口、牧野、山崎の各委員沼田、三浦の兩囑託出席會誌編輯上に付協議を爲せり
- 同年同月二十八日各會員に對し定時總會開催の通知を發せり
- 同年同月三十一日土木學會誌第十卷第六號發行成規の届出を爲し同十四年一月二十四日各會員に配付せり
- 同十四年一月十二日土木學會高速度鐵道調查委員會第十回特別委員會を開き古川委員長、大河戸主査、田中、西、平井、古川、物部の各委員沼田幹事出席す
- 同年同月十四日役員會を開き中山會長丹羽副會長、池田、太田、川上、後藤、

八田、伴の各常議員井上、丹治兩主事金森編輯委員長、川口、野口、平井の各編輯委員出席中山會長議長席に着き左記事項を決議せり

△大正十三年度豫算流用及追加豫算増額を承認すること

△大正十三年度損益計算表を承認すること

△大正十三年度事業及會計報告を承認すること

△第二回全國工業家大會に参加方勸誘ありたるに對し申越の次第は了承せるも大會には参加せざること

其他會務に關する事項

○同年同月十六日土木學會震害調査委員會第一部會第十回委員會を開き安藝主査青山、清水代(水野)、伴、眞島の各委員沼田幹事出席す

土木學會定時總會議事概要

大正十四年一月十七日午後三時半東京市麴町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會に於て定時總會を開く、出席者會員百三十名准員十五名學生員七名合計百五十二名にして會長中山秀三郎君議長席に着き開會を告げ次で主事丹治經三君大正十三年度事業報告を同井上秀二君同年度收支決算報告並に貸借對照表を代讀し何れも出席會員の承認を得たり

該報告及貸借對照表の全文は次の如し

大正十三年度土木學會事業報告

理 事 中 山 秀 三 郎

理 事 岡 野 昇

理 事 丹 羽 鋤 彦

大正十三年度中事業の概要を報告す

(一) 會 合

大正十三年一月十九日午後四時東京市麴町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會に於て定時總會を開く出席者會員八十一名准員十名學生員五名合計九十六名にして會長中原貞三郎君議長席に着き事業及決算の報告を爲し次で會長の講演あり續て役員の改選を爲したり

上記の外同年度中の會合は役員會十二回講演會四回編輯委員會十三回土木學會震害調査委員會三十六回東京市内外の高速鐵道調査委員會十三回なり

(二) 役員改選職員就任

定款第十一條に依り會長中原貞三郎君副會長中山秀三郎君常議員上野有芳君同那波光雄君同原全路君退任及同阪田貞明君逝去に付前項定時總會に於て改選を行ひ當選したる役員の名目下記の如し

會 長	中 山 秀 三 郎 君
副 會 長	岡 野 昇 君
常 議 員	太 田 圓 三 君
同	後 藤 佐 彦 君
同	竹 内 季 一 君
同	八 田 嘉 明 君

同年同月二十九日規則第二十五條に依り職員の推薦を行ひ左の通り就任せり

主 事	井 上 秀 二 君
同	丹 治 經 三 君
編輯委員長	金 森 鍬 太 郎 君
編輯委員	川 口 愛 太 郎 君
同	野 口 寅 之 助 君
同	平 井 喜 久 松 君
同	牧 野 雅 樂 之 丞 君
同	谷 井 陽 之 助 君
同	山 崎 匡 輔 君

(三) 調査會設置並委員囑託

同年同月十六日土木學會震害調査委員會を設け會員廣井勇君を右委員長に推し同安藝杏一君外七十名を委員に同井上秀二君外一名を幹事に囑託せり

同年同月同日東京市内外の高速度鐵道調査委員會を設け會員古川阪次郎君を右委員長に推し同阿部美樹志君外二十一名を委員に同井上秀二君外一名を幹事に囑託せり

(四) 諸會合に委員撰出

同年同月同日帝都復興聯合協議會に参加し本會代表者として會員岡野昇君同丹羽鋤彦君同比田孝一君に依囑せり

同年五月工學會より照會に係る工學全般に互る綜合的雜誌の發行並各學會事務所を包含する一大會館建設に關する案に付審議を爲す委員として本會より主事井

上秀二君同丹治經三君に依嘱せり

同年七月十八日豫て農商務省秘書課長より照會ありたる工業品規格統一調査委員として本會より會員廣井勇君を撰出中の處同君より右委員辭任したき旨申出ありたるを以て同岡野昇君を撰出せり

同年四月工政會及東京市政調査會主催の下に各學會聯合し土地區劃整理講演會を開き本會よりの講演者として會員井上秀二君同川上浩二郎君同那須章彌君同宮長平作君に依嘱せり

(五) 賀表及賀箋捧呈

同年一月二十六日 皇太子殿下御成婚に際し工學會理事長男爵古市公威君工學會會員たる各學會を代表し賀表並賀箋を捧呈せり

(六) 仙石前會長鐵道大臣就任祝賀會

同年七月二十日帝國鐵道協會に於て前會長工學博士仙石貢君鐵道大臣に就任に付祝賀會を催せり當日出席者七十三名なりき

(七) 調 査 事 項

前項土木學會震害調査委員會並東京市内外の高速度鐵道調査委員會は爾來引續き調査中なり

(八) 會 誌 の 組 方 變 更

從來會誌は縦組なりしを大正十三年二月發行第十卷第一號より之れを横組と爲せり

(九) 會 誌 の 發 行

大正十三年度中會誌第九卷第五號より第十卷第六號まで發行せり

(十) 小柴前常議員の逝去

前常議員小柴保人君は大正十三年五月九日逝去に付本會に於ては弔詞及玉串料を靈前に供せり

(十一) 登 記 事 項

大正十三年一月十九日の定時總會に於ける理事の改選及資産の總額を金七萬貳千八百參拾參圓拾九錢と變更の件は同月二十五日其登記を了せり

(十二) 土 木 賞 牌 贈 呈

會員高西敬義君の繫船岸壁の構造及之が築設に關する構設上の私見と題する論文に對し大正十二年度第一土木賞牌を贈呈せり

(十三) 視 察 旅 行

大正十三年四月二十七日東京市村山貯水池及同境浄水場の視察旅行を爲し會員四十九名の參加ありたり

(十四) 寄 附 金 の 受 領

同年二月十二日故會員石黒五十二君記念資金募集實行委員丹羽鋤彦君外十三名より本會基金として帝國五分利公債額面金七千圓の寄附申込ありたるに付之を受領し故石黒工學博士記念基金の名稱を附し本會基金に編入せり

同年七月十八日故會員近藤虎五郎君嗣子近藤光之君より本會基金として帝國五分利公債額面金四千參百圓の寄附申込ありたるに付之を受領し故近藤工學博士記念基金の名稱を附し本會基金に編入せり

同年三月一日川崎工場主男爵川崎寛美君より本會の趣旨を賛成し研究調査の資金として金參千圓（毎年六月及十二月の二回に分ち各五百圓宛三ヶ年間に分納）の寄附申込ありたるに付之を受領し震害調査費用に充當することとせり

(十五) 贊 助 員 承 認

同年同月十三日川崎工場主男爵川崎寛美君を賛助員として承認せり

(十六) 英國土木學會其他より照會

一、英國土木學會より震災の被害調査方に付照會ありし處右調査要項は本會に於て調査中に係る部門に適合せるを以て調査完了の上報告書を送付することに廣井委員長より回答を發せり

二、ルーヴェン國際事業委員會より圖書寄贈方依頼ありしを以て本會に於ては會誌を毎號寄贈すること又既刊の分は之を裝禱の上贈ることとせり

三、加奈陀トロント市に開催の國際數學會議に出席方同會より勸誘ありたるも時日切迫の爲出席不可能の旨回答を發せり

(十七) 會 員 數

大正十三年度中の入會者は會員四十名准員百四十名學生員六十一名にして合計二百四十一名退會者は會員十名准員二十九名學生員五十四名合計九十三名死亡者は會員五名准員十四名學生員一名合計二十名にして大正十三年十二月末日に於ける現在數は會員七百六十四名准員一千六百七十一名學生員二百二十四名合計二千六百五十九名なり

大正十三年度土木學會決算報告

理 事 中 山 秀 三 郎
理 事 岡 野 昇
理 事 丹 羽 鋤 彦

收 支 計 算

收 入 の 部

○會 費	43,621,89
內 會 員 會 費	13,839,50
准 員 會 費	19,262,89
學 生 員 會 費	1,519,50
○利 子 及 雜 收 入	3,920,97
內 預 金 利 子	44,94
基 金 利 子	1,959,53
雜 入	916,50
寄 附 金	1,000,00
○入 會 金	962,00
內 會 員 入 會 金	275,00
准 員 入 會 金	577,00
學 生 員 入 會 金	110,00
合 計	39,504 86

支 出 の 部

○事 務 費	14,113,06
內 通 信 費	233,68
俸 給 諸 給 手 當 費	7,390,50
事 務 室 及 會 場 費	1,745,00
消 耗 品 費	296,96
諸 印 刷 費	1,426,30
振 替 貯 金 料 金	885,91
雜 費	1,934,71
會 費	200,00
○會 誌 費	22,823,92

內 會 誌 印 刷 費	19,964,92
速 記 費	114,00
翻 譯 費	143,00
製 圖 費	221,30
運 送 費	1,740,52
雜 費	640,18
○震 害 調 查 費	1,897,71
○高 速 度 鐵 道 調 查 費	408,10
○圖 書 及 備 品 費	259,40
○本 年 度 殘 金	2,67
合 計	39,504.86

基 金 計 算

收 入 の 部

○前 年 度 繰 越 金	57,272,78	
內 吉 市 兩 博 士 基 金	15,877,40	
故 白 石 博 士 基 金	13,611,03	
故 山 崎 博 士 基 金	1,587,84	
土 木 賞 牌 基 金	433,42	
原 田 博 士 基 金	2,597,60	
廣 井 博 士 基 金	6,066,66	
小 川 博 士 基 金	1,004,70	
故 富 田 博 士 基 金	500,00	
基 金	15,594,13	本會設立分
○故 石 黒 博 士 記 念 基 金	6,027,00	公債額面七千圓寄附受領
○故 近 藤 虎 五 郎 博 士 記 念 基 金	3,615,33	公債額面 4,300圓寄附受領
○利 子 收 入	2,966,05	
內 吉 市 兩 博 士 基 金 利 子	884,80	公債及貯金
故 白 石 博 士 基 金 利 子	790,70	同
故 山 崎 博 士 基 金 利 子	81,50	公債
土 木 賞 牌 基 金 利 子	25,00	同

原田博士基金利子	153,22	公債及貯金
廣井博士基金利子	357,50	同
小川博士基金利子	50,00	當座
故富田博士基金利子	25,00	同
故石黒博士基金利子	350,00	公債
故近藤博士基金利子	107,36	同
基金利子	140,97	公債及貯金
合 計	69,881,16	

支 出 の 部

○經常費目編入金	1,959,53	利子ノ三分ノ二
○翌年度へ繰越金	67,921,63	本年度利子三分ノ一ヲ各基金ニ編入セルモノ
内古市沖野兩博士基金	16,172,33	
故白石博士基金	13,874,59	
故山崎博士基金	1,615,00	
土木賞牌基金	441,75	
原田博士基金	2,648,66	
廣井博士基金	6,185,82	
小川博士基金	1,021,36	
故富田博士基金	508,33	
故石黒博士基金	6,143,66	
故近藤博士基金	3,669,01	此分利子二分ノ一基金編入
基金	15,641,12	
合 計	69,881,16	

繰 越 金 内 譯

○各基金繰越高	67,921,63
○本年度殘金	2,67
計	67,924,30

内

譯

有價証券	51,185,55	{五分利公債額面五萬八千三百
當座預金	2,214,12	{五十圓貯金局及三菱銀行保管 三菱銀行

郵便貯金	2,240,59	
振替貯金	814,44	
現金	625,41	
經常費に貸金	10,844,19	七年度1,548,25 八年度1,779,21 九年度2,999,08 十年度3,954,80 11年度 310,08 12年度 252,77

貸借對照表 (大正十三年十二月三十一日現在)

貸方 (負債の部)		借方 (資産の部)	
古市 神野 兩博士遷曆記念基金	16,172,33	圖書及備品	2,791,26
故白石博士記念基金	13,874,59	經常費に貸金	10,844,19
故山崎博士記念基金	1,615,00	假拂金	100,00
廣井博士土木賞牌基金	441,75	未収入金	11,002,41
原田博士基金	2,648,66	有價證券	51,185,55
廣井博士遷曆記念基金	6,185,82	當座預金	2,214,12
小川博士遷曆記念基金	1,021,36	郵便貯金	2,240,59
故富田博士記念基金	508,33	振替貯金	814,44
故石黒博士記念基金	6,143,66	現金	625,41
故近藤 藤五郎博士記念基金	3,669,01		
基金	15,641,12		
翌年度へ繰越金	13,896,34		
合 計	81,817,97	合 計	81,817,97

財 産 目 録

貸借對照表資産の部と同一に付省略す

次に役員の変更を行ひ會長の指名せる開票立會委員岡部三郎君草間偉君山田隆二君は投票紙三百六十九通の開票を爲したり當選役員及五票 (常議員は三十一票) 以上の得點者次の如し

會 長

二百七十八票 (當選)

三十九票

二十六票

五票

副 會 長

中 島 銳 治 君

丹 羽 鋤 彦 君

吉 村 長 策 君

市 瀬 恭 次 郎 君

二百十五票 (當選)	市 瀨 恭 次 郎 君
百四票	直 木 倫 太 郎 君
五票	那 波 光 雄 君
常 議 員	
二百五十四票 (當選)	金 森 欽 太 郎 君
二百三票 (當選)	眞 島 健 三 郎 君
百九十四票 (當選)	草 間 偉 君
百八十八票 (當選)	島 重 治 君
七十九票	大 河 戸 宗 治 君
七十一票	那 須 章 彌 君
五十一票	茂 庭 忠 次 郎 君
三十一票	宮 長 平 作 君

前記役員改選開票中に會長講演あり終りて議長より開票の結果を發表し午後五時閉會せり續て土木工事に關する活動寫眞數卷の影寫あり同六時半より有志晚餐會を開き八十九名の出席者あり盛會裡に同八時二十分散會せり

○同年同月二十日土木學會震害調査委員會第一部會第十一回委員會を開き安藝主査、青山、金森、清水代(水野)高田代(松本)田村、伴、渡邊代(大場)の各委員沼田幹事出席す

○同年同月同二十一日土木學會高速度鐵道調査委員會第十一回特別委員會を開き古川委員長大河戸主査田中、手塚、西、平井、古川、物部、山崎の各委員沼田幹事土井、野坂の兩囑託出席す同日安倍邦衛君に特別委員を依囑せり

○同年同月二十三日臨時役員會を開き中島會長市瀨副會長太田、金森、草間、眞島の各常議員廣井古川の兩前會長井上丹治の兩主事出席中島會長議長席に着き議事に先ち會長及副會長、常議員新任の挨拶あり續て左記事項を決議せり

△主事井上秀二君同丹治經三君編輯委員長金森鐵太郎君同委員川口愛太郎君同野口寅之助君同平井喜久松君同牧野雅樂之丞君同谷井陽之助君同山崎匡輔君任期満了の處川口愛太郎君を編輯委員長に同君の後任として黒田武定君を又牧野雅樂之丞君の後任として佐藤利恭君を其他の職員は全部引續き前任者を推薦すること

△震害調査會所要經費に付考へ置を願ふこと

△會員名簿に會員の死亡者を掲載すること

其他會務に關する事項

○同年同月二十六日東京區裁判所に於て理事の改選及資産の總額變更の登記を了せり

○准員谷口源八君は「永弘」と同奥田孝六郎君は「廣瀬」と改氏名せられたる旨届出ありたり

○左記の諸氏は退會せられたり

會員飯田正君同池内勉君同土屋峯吉君同藤原初治君同渡邊英保君准員阿部喜藏君同伊藤喜一郎君同岩崎彌太郎君同加藤俊次君同齊藤久平君同仲本利夫君同鍋田三昌君同成瀬志朗君同前田兼雄君同山田鈞一君學生員今井周君

○大正十三年十一月十六日以降同十四年一月十五日迄に入會を承認し名簿に登録したるもの左の如し(○印ハ准員ヨリ△印ハ學生員ヨリ轉シタルモノヲ示ス)

會員の部 (五名)

○内山新之助君 ○河口 協介君 ○樫木 寛之君 ○杉本好太郎君
増 田 淳君

准員の部 (十七名)

阿部 忠作君 阿部 貞雄君 川島 恭平君 △沓掛 重義君
杉山雄次郎君 △爲田 不二君 △島田 義章君 清水幸一郎君
△長久保俊夫君 永田 幸義君 △西岡 宏治君 △西村 隆雄君
△野中 典悦君 東 良 治君 △松尾 春雄君 △棟本 修造君
吉田 光夫君

學生員の部 (十五名)

浦 要 治君 小田川利喜君 小野 道人君 加藤喜一郎君
河村 秀一君 國富 忠寛君 桑野實代嗣君 小西 芳久君
佐藤 文哉君 白井 一郎君 寺井 英雄君 野呂 禮三君
古川 朝時君 松下 幹雄君 柳澤 米吉君

○同年十一月十六日以降同十四年一月十五日までに寄贈及交換を受けたる雑誌其他下記二十六種なり

寄贈を受けたる分

帝國大學工學部紀要 第十五冊第一八號 二冊 東京帝國大學
第十六冊第一二三號
東北帝國大學工學報告 第四卷第三號 一冊 東北帝國大學

大正十三年度藏前工業會々員名簿	一冊	社團法人藏前工業會
早稻田建築學報第三號及震害調査報告	二冊	早稻田大學理工學部建築學 科内藤多伸君
港灣第二卷第六號及第三卷第一號	二冊	港 灣 協 會
シビル第三卷第十一、十二號及第四卷第一號	三冊	シ ビ ル 社
千葉縣銚子外十四漁港修築工事計畫概要	十五冊	農商務省水産局
工政第六一、六二號及鐵道政策の研究 並に會員名簿	四冊	工 政 會
道路大正十三年十二月號及同十四年一、二月號	三冊	道 路 協 會
會報第二〇、二一號並に會員名簿	三冊	名 古 屋 工 業 會
滿洲技術協會雜誌第一卷第四號	一冊	滿 洲 技 術 協 會
會 員 名 簿	一冊	社團法人電氣協會
工業評論第十卷第十一、二及第十一卷第一號	三冊	工 業 評 論 社
イギリスの保健行政組織	一冊	財團法人 東京市政調査會
土地増價税と土木未改良價格税の研究	一冊	
ウイーン市財政事情	一冊	
シムボル標準調査報告	一冊	日本電氣工藝委員會
電氣工作物震災豫防調査會調書	一冊	會員工學博士 中山秀三郎君
國際建築時論第一卷第一號	一冊	國 際 建 築 協 會
治 水 事 業 概 要	一冊	會員工學博士 金森鐵太郎君
電氣製鋼第一卷第一號	一冊	電 氣 製 鋼 研 究 會
交 換 の 部		
造船協會雜誌第三五一第四〇及會員名簿 並ニ造船術語集	八冊	造 船 協 會
建築雜誌第四六二一第四六五及會員住所姓名錄	五冊	建 築 學 會
鐵と鋼第十年第十一號、十二號	二冊	日 本 鐵 鋼 協 會
業務研究資料第十二卷第十一、十二號	二冊	鐵道大臣官房研究所
工業化學雜誌第二七編第十一、十二號	二冊	工 業 化 學 會
電氣學會雜誌第四三七、四三八號	二冊	電 氣 學 會
電 氣 學 會 一 覽	一冊	
電氣工作物震災豫防調査會調書	一冊	
小運送改善に関する意見	三冊	帝 國 鐵 道 協 會

准員宇垣建君は大正十三年二月同林昌彰君は同十四年一月十七日
死去せられたり本會は哀悼の意を表す

土木學會定款

總 則

第一條 本會ハ土木工學ノ進歩及ヒ土木事業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ土木學會ト稱シ事務所ヲ東京市麹町區有樂町一丁目一番地ニ置ク

事務所ノ位置ノ變更ハ東京市内ニ於テスル場合ニ限り役員會ニ於テ之ヲ決議シ主務官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ行フコトヲ得

第三條 本會ハ地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

會 員

第四條 左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ土木學會規則ノ定ムル所ニ依リ會員タルコトヲ得

一 工學専門ノ高等教育ヲ受ケ其程度ニ依リ五箇年乃至十箇年以上其業務ニ従事シタル者

二 土木工事設計ノ技能ヲ有シ五箇年以上重要ナル工事ヲ擔任シタル者

第五條 本會ニ賛助員准員及ヒ學生員ヲ置クコトヲ得其資格及ヒ權利義務ハ土木學會規則ニ於テ之ヲ定ム

第六條 會員ニシテ本定款若ハ土木學會規則ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラレタル者アルトキハ本會ハ役員會ノ議決ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

會 費

第七條 會員ハ土木會規則ノ定ムル所ニ依リ會費ヲ負擔ス

役 員

第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一 會 長 一 名

二 副 會 長 二 名

三 常 議 員

常議員ノ數ハ土木學會規則ニ於テ之ヲ定ム

第九條 本會ノ理事ハ三名トシ會長及ヒ副會長ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 役員ハ總會ニ於テ東京市及ヒ其附近近在會員中ヨリ帝國在在會員ノ投票ニ依リ之ヲ選舉ス

同數ノ投票ヲ得タル者二人以上アリテ定員ヲ超過スルトキハ年長者ヲ當選トス

第十一條 會長ノ任期ハ一箇年トシ重任スルコトヲ得ス

副會長及ヒ常議員ノ任期ハ二箇年トシ毎年其半數ヲ改選ス重任スルコトヲ得ス

第十二條 役員ニ臨時缺員ヲ生シタルトキハ役員會ニ於テ之ヲ補選スルコトヲ得

補選セラレタル役員ハ前任者ノ殘期間在職スルモノトス

第十三條 役員會ハ會長副會長常議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十四條 本定款及ビ法律ニ於テ特ニ總會ノ權限ニ屬セシメサル會務ハ總會役員會ノ議決ヲ經テ理事之ヲ處理ス

會 計

第十五條 本會ノ經費ハ會費寄附金其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

會 合

第十六條 本會ハ毎年一回總會ヲ開キ事業及ヒ決算ノ報告ヲ爲スヘシ

第十七條 本會ハ土木學會規則ニ依リ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第十八條 總會ハ役員會ノ議決ヲ經テ理事之ヲ招集ス

第十九條 總會ニ於テ出席員四分ノ三以上ノ同意アルトキハ第二十二條ノ場合ヲ除クノ外豫メ通知セザリシ事項ニ就キ決議ヲ爲スコトヲ得

第二十條 會員ハ自ラ會場ニ出席スルニ非サレハ會議ニ與カリ又ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス但シ第十條ノ役員

選舉ニ關シテハ投票ヲ送付スルコトヲ得

雜 則

第二十一條 本定款ノ施行ニ必要ナル事項ハ土木學會規則ヲ以テ之ヲ規定ス

土木學會規則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十二條 總會ニ於テ全會員五分ノ一以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意アルトキハ本定款ヲ改正スルコトヲ得

改正案ハ總會招集ノ日ヨリ少クモ十五日以前ニ之ヲ會員ニ通知スルコトヲ要ス

附 則

第二十三條 第一回ノ會長、副會長及常議員ハ定款第十條ヲ準用シ發起人總會ニ於テ之ヲ選舉ス

第二十四條 第一回ニ選舉セラレタル會長並ニ批發ヲ以テ定メタル副會長及常議員ノ各半數ノ任期ハ大正五年一月ノ總會迄トシ副會長及常議員ノ殘半數ノ任期ハ大正六年一月ノ總會迄トス

土 木 學 會 規 則

第一條 會員タラント欲スル者ハ會員三名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書ヲ會長ニ差出スヘシ

前項ノ希望者アリタルトキハ會長ハ之ヲ役員會ノ議ニ附シ入會ノ可否ヲ定ム

第二條 入會ノ承認ヲ得タル者ハ入會金拾圓ヲ納付スヘシ

前項ノ入會金ヲ受領シタルトキハ入會者ノ姓名ヲ會員名簿ニ登録ス

第三條 退會セント欲スル者ハ其旨ヲ會長ニ申出ツヘシ

第四條 本會ノ趣旨ヲ賛成シテ一時ニ金貳百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ寄附スル者ヲ賛助員トス

第五條 賛助員タラント欲スル者ハ會員一名以上ノ紹介ヲ以テ金額又ハ物件寄附ノ申込書ヲ會長ニ差出スヘシ

寄附ノ金員又ハ物件ヲ受領シタルトキハ寄附者ノ姓名ヲ賛助員名簿ニ登録ス

第六條 左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ准員タルコトヲ得

一 工學専門ノ高等教育ヲ受ケタル者

二 工學ノ智識ヲ有シ三箇年以上土木ニ關係アル業務ニ従事シタル者

第七條 准員タラント欲スル者ハ會員一名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書ヲ會長ニ差出スヘシ

入會ノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ納付スヘシ

前項ノ入會金ヲ受領シタルトキハ入會者ノ姓名ヲ准員名簿ニ登録ス

第八條 工學専門ノ高等學校程度以上ノ學校在學中ノ者ハ學生員タルコトヲ得

第九條 學生員タラント欲スル者ハ會員一名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書ヲ會長ニ差出スヘシ

入會ノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳圓ヲ納付スヘシ

前項ノ入會金ヲ受領シタルトキハ入會者ノ姓名ヲ學生員名簿ニ登録ス

第十條 賛助員、准員及ヒ學生員ハ會務ノ議定ヲ除クノ外會員ノ權利ヲ享有ス

第十一條 准員ガ會員ニ又ハ學生員カ准員若クハ會員ニ轉セントスルトキハ各其資格ニ該當スル入會ノ手續ヲ準用ス但入會金ハ各其差額ヲ納付スヘシ

第十二條 會員ノ會費ハ年額金拾八圓トシ毎年二月、六月、十月ノ三度ニ分納スヘシ

新ニ入會シタル者ハ月割ヲ以テ會費ヲ納付スヘシ

一時ニ金百六拾圓ヲ納付シタル者ハ以後會費ノ負擔ヲ要セス

第十三條 會員六箇月以上會費ノ納付ヲ怠リタルトキハ會長ハ役員會ノ議ヲ經テ會員タル特權ノ行使ヲ停止スルコトヲ得

怠納ニ箇年ニ及フ者ハ定款第六條ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第十四條 退會其他ノ事由ニ依リテ會員ノ資格ヲ失ヒタル者ハ既ニ納付シタル會費ノ返還ヲ求ムル事ヲ得ス

又本會ニ對シテ負フタル債務ハ之ヲ辨償スヘシ

第十五條 准員ノ會費ハ年額金拾貳圓トシ毎年二月、六月、十月ノ三度ニ分納スヘシ

一時ニ金百拾圓ヲ納付シタル者ハ以後會費ノ負擔ヲ要セス

第十六條 前條第二項ノ准員カ會員ニ轉シタルトキハ其會費ハ年額金六圓トシ轉シタル時ヨリ月割ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

前項ノ會員カ更ニ一時金五拾圓ヲ納付シタル時ハ以後會費ノ負擔ヲ要セス

第十七條 學生員ノ會費ハ年額金七圓五拾錢トシ毎年二月、六月、十月ノ三度ニ分納スヘシ

第十八條 會長ハ本會ノ事務ヲ總理シ總會及ヒ役員會ノ議長トナル

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第十九條 定款第八條ノ常議員ノ定員ハ八名トス

定款第十條ノ其附近ノ區域ハ京東市隣接ノ各郡及横濱市トス

第二十條 會長ハ退任後ト雖役員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十一條 本會ニ左ノ議員ヲ置ク

- | | |
|---------|-----|
| 一 主 事 | 二 名 |
| 二 編輯委員長 | 一 名 |
| 三 編輯委員 | 若干名 |

第二十二條 主事ハ庶務會計及ヒ會誌刊行ノ事務ヲ掌ル

第二十三條 編輯委員長及編輯委員ハ會誌原稿撰定ノ事ヲ掌ル

第二十四條 役員及ヒ職員ハ總テ名譽職トス

第二十五條 職員ハ役員會ニ於テ會員中ヨリ推選セラレタル者ニシテ其任期ハ一箇年トス但シ再選セララルコトヲ得

第二十六條 會長ハ有給事務員若干名ヲ任用スルコトヲ得

第二十七條 會長ハ毎年十一月ニ於テ翌年一月ヨリ十二月ニ至ル一箇年收支豫算ヲ調製シ役員會ノ承認ヲ經ヘシ

第二十八條 會長ハ毎年一月ニ於テ前年中ノ收支決算財産債權及ヒ債務ノ狀況ヲ調査シ役員會ノ承認ヲ經テ同月ノ總會ニ報告スヘシ

第二十九條 豫算費目内ノ支出ハ會長之ヲ專行スルコトヲ得

豫算費目ノ流用ハ役員會ノ議決ヲ得ルヲ要ス

第三十條 會長ハ常用雜費ノ支拂ノ爲メ役員會ノ定ムル所ニ依リ主任者ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 總會ハ毎年一月之ヲ開ク

總會ニ於テハ會長講演ヲ爲ス

第三十二條 臨時總會ハ役員會カ必要ト認ムルトキ又ハ全會員十分ノ一以上ノ請求アルトキ之ヲ開ク

第三十三條 役員會ハ役員半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 總會及ヒ役員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第三十五條 本會ハ毎年三回以上講演會ヲ開キ毎年六回以上會誌ヲ發行ス

第三十六條 本會ハ土木工學又ハ土木事業ニ就テ特ニ功勞アル者ニ對シ役員會ノ議決ヲ經テ之ヲ旌表スルコトアルベシ

第三十七條 本會ハ本會會誌所載ノ論說報告等ニシテ優秀ナルモノニ對シ役員會ノ議決ヲ經テ賞牌ヲ贈ルコトアルヘシ

第三十八條 定款第六條並本則第一條第二項及ヒ第三條ノ規定ハ贊助員、准員及ヒ學生員ニ本則第十二條第二項第十三條及第十四條ノ規定ハ准員及ヒ學生員ニ之ヲ準用ス

第三十九條 支會ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四十條 總會ニ於テ全會員十分ノ一以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意アルトキハ本規則ヲ改正スルコトヲ得但シ改正案ハ總會招集ノ日ヨリ少クモ十五日以前ニ之ヲ會員ニ通知スルコトヲ要ス

附 則

第一回ノ職員ノ任期ハ大正五年一月マテトス

土木學會誌第十卷第五號「帝都復興專業に就て」正誤表

頁	行	誤	正
933	3	每平方米 186 呎	每平方米 600 呎

土木學會誌第十卷第六號正誤表

GENERAL THEORY ON EARTH PRESSURE AND SEISMIC STABILITY OF RETAINING WALL AND DAM.

E R R A T A.

Page.	Line.	Error.	Correction.
6	15	Let P be	Let p be
8	6	$\tan^{-1} \frac{bc + a\sqrt{\quad}}{b^2 - a^2}$	$\tan^{-1} \frac{bc + a\sqrt{\quad}}{b^2 - a^2}$
„	14	$\tan \delta = \frac{\sin \varphi \sqrt{\quad}}{\cos \varphi \sqrt{\quad}}$	$\tan \delta = \frac{\sin \varphi \sqrt{\quad}}{\cos \varphi \sqrt{\quad}}$
9	14 & 19	$\frac{dP}{dS} =$	$\frac{dP}{ds} =$
18	9	$\int_0^{110} \frac{P}{\sin \alpha} d\eta$	$\int_0^{110} \frac{p}{\sin \alpha} d\eta$
„	20	a quay wall between	a quay wall, between
„	24-25	will be scarcely be happen	will be scarcely happen
19	20	$\{(P_c - P_o) \cos(\alpha - \varphi_o)$ $\pm m\alpha \left\{ \sin \frac{2\pi}{T} t \right.$	$\{(P_c - P_o) \cos(\alpha - \varphi_o)$ $\pm m\alpha_v \left\{ \sin \frac{2\pi}{T} t \right.$
20	17	h'	h'_o
21	7	$\sqrt{\frac{L'}{g}} \cosh \frac{\theta}{\gamma}$	$\sqrt{\frac{L'}{g}} \cosh^{-1} \frac{\theta}{\gamma}$
„	8	$\frac{\gamma}{2} \left(e^{\sqrt{\frac{g}{L'}} t} + \right.$	$\frac{\gamma}{2} \left(e^{\sqrt{\frac{g}{L'}} t} + \right.$
„	14 & 21	h'	h'_o
22	2	$-e^{\sqrt{bt}} \frac{d(e^{\sqrt{bc}})}{dt}$	$-e^{\sqrt{bt}} \frac{d(e^{-\sqrt{bc}})}{dt}$
„	15	$-e^{\sqrt{bt}} \frac{d(e^{\sqrt{bc}})}{dt}$	$-e^{\sqrt{bt}} \frac{d(e^{-\sqrt{bc}})}{dt}$
„	19	$\frac{d\theta}{dt} = \left\{ \right\} \sqrt{B} + \frac{D}{\lambda^2 + B} \sin \lambda t$	$\frac{d\theta}{dt} = \left\{ \right\} \sqrt{B} + \frac{D\lambda}{\lambda^2 + B} \cos \lambda t$
23	10	$\gamma = + \frac{C}{B} + \frac{D}{\lambda^2 + B} \sin \lambda t_o$	$\gamma = + \frac{C}{B} + \frac{D}{\lambda^2 + B} \sin \lambda_o \frac{T_o}{4}$

土木學會誌第十卷第六卷「真北測定」正誤表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
1140	上ヨリ 15	向方	方向	1154	上ヨリ 10	$\angle SOS'$	$\angle SOS'_1$
"	下ヨリ 5	S	Se	"	第八圖	下ノS'	S'_1
1141	上ヨリ 13	S 32.31	S 32.13	"	下ヨリ 1	第五表	第六表
1143	上ヨリ 4	日十八	十八日	1157	上ヨリ 14	44	44°
"	下ヨリ 10	S 32.3	S 32.13	1159	下ヨリ 8	25°行+5°列 12	21
"	下ヨリ 10	S 32.3	S 32.13	1160	下ヨリ 12	40°行+5°列 1'59''	1'19''
"	下ヨリ 10	S 32.3 (十八日)	S 32.13 (十八日)	"	上ヨリ 5	30°行-5°列 49	46
"	下ヨリ 8	S 32.3	S 32.13	"	上ヨリ 19	37½°行-10°列 1'20''	1'02''
"	下ヨリ 8	S 32.3	S 32.13	1161	下ヨリ 3	此極	北極
1144	下ヨリ 1	劍光	劍尖	"	下ヨリ 1	0.409	04.1109
1147	下ヨリ 14	(10,0145)	(0,0115)	1162	下ヨリ 7	基線中	其線中
1149	下ヨリ 8	3	0°½'	1163	上ヨリ 12	測點ノ次	釘を脱す
"	下ヨリ 2	地ならは	地ならは	1164	上ヨリ 11	測定	測設
1150	第三表中	1919年136°中 1°23'.0	0°23'.6	"	下ヨリ 15	太陽の	の字衍
"	第三表中	區中 -0.2	-0.1	1166	上ヨリ 4	乃午後	乃字衍
"	上ヨリ 15	子北角	子午角	"	上ヨリ 4	午後八時至	至の前乃を脱す
"	上ヨリ 16	2/3	0°½'	"	上ヨリ 6	乃午前十時	乃字衍
1152	上ヨリ 1	p'-	一は衍	"	上ヨリ 6	午前十時至	至の前乃を脱す
"	上ヨリ 4	R+α	R tan α	"	上ヨリ 8	四十九分	九字衍
"	上ヨリ 13	6029	36029	第一表	VIノ行 δ列	51'59.74	51'53.74
"	下ヨリ 4	'Sin C.s	Sin Cos''	第一表	VIノ行 α列	30'31.14	30'24.14
1153	上ヨリ 6	(10'')	(10)	第一表	XIIノ行 α列	1°32'05.35	1°32'03.35
"	上ヨリ 2	(10')	(9')	第一表	Iノ行 前日ノ平 均時列	(0.98)	(0.78)
1154	上ヨリ 9	$\angle ZOS'$	$\angle ZOS'_1$	第一表	Iノ行 1ss A列	8,3791985	8,3797985

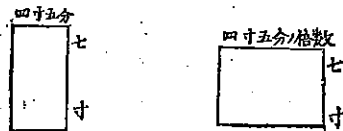
Page.	Line.	Error.	Correction.
23	11	$0 = c_1 e^{\sqrt{B} \frac{t_0}{4}} - c_2 e^{-\sqrt{B} \frac{t_0}{4}}$	$0 = c_1 e^{\sqrt{B} \frac{t_0}{4}} - c_2 e^{-\sqrt{B} \frac{t_0}{4}}$
		$\frac{D\lambda}{\sqrt{B}(\lambda^2 + B)} \cos \lambda t_0$	$+\frac{D\lambda}{\sqrt{B}(\lambda^2 + B)} \cos \lambda \frac{T_2}{4}$
26	18	$\frac{dx}{dt} = \left[c_2 - \frac{C}{2\sqrt{B}} \right]$	$\frac{dx}{dt} = \left[c_2 - \frac{D}{2\sqrt{B}} \right]$
27	11	$T_0 = T \cdot \frac{2\pi LV\sqrt{m}}{\sqrt{EI - mgh_0}}$, in which	$T_0 = nT' = n' \cdot \frac{2\pi LV\sqrt{m}}{\sqrt{EI - mgh_0}} \dots 67.$
		T is the seismic period. . (67)	where T is seismic period $\frac{n}{n'}$ $= \frac{\lambda}{\sqrt{B}}$, n and n' are integers.
28	7	$-\frac{LmD\lambda}{(\lambda^2 - B)} \left[\quad \right]$	$+\frac{LmD\lambda}{(\lambda^2 - B)} \left[\quad \right]$
„	21	or = $\{P_o + P_o - P_e\} \sin \lambda t_0$	or = $\{P_o + (P_e - P_o) \sin \lambda t_0\}$
30	7	$(\cos \alpha + P_o mg) \left(1 \pm \frac{\alpha_{vr}}{g} \right)$	$(P_o \cos \alpha + mg) \left(1 \pm \frac{\alpha_{vr}}{g} \right)$
32	17	$(H) = \left(P_o + \frac{\alpha_{vr}}{g} \sin \lambda t_0 \right) \sin \alpha$	$(H) = P_o \left(1 + \frac{\alpha_{vr}}{g} \sin \lambda t_0 \right) \sin \alpha$
35	15-16-17	β	B
35	22	$= 4,000 \text{ mm/sec}^2$	$\alpha_n = 4,000 \text{ mm/sec}^2$
37	11	$\frac{p_1 d}{2} \tan \phi_2$	$\frac{p_1 d}{2} \tan \phi_1$
„	19	$\frac{p_1 d}{6}$	$\frac{p_1 d^2}{6}$
44	10	$\alpha_{vr} = \pm 2,100 \text{ mm/sec}^2$	$\alpha_{vr} = \pm 1,200 \text{ mm/sec}^2$
45	24	For $k=0$	For $k \neq 0$

寄稿に関する注意事項

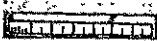
- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。
- (2) 御寄稿は成るべく邦文にて假名は平假名を用ひ句讀點を入れられたること。
- (3) 地名人名等凡ての外國固有名詞は原語の儘とし尙術語中譯語の紛らはしきもの及數箇の譯語あるものはなるべく原語を記入すること。
- (4) 歐字は特に明瞭に認むること。
 u と u 又は k, U と v, O と c, K と k, M と m, N と n,
 U と u, S と s, V と v, r と v,
 等の區別には特に御注意せられたること。
- (5) 新に圖面御作製の場合には次の各項に御注意ありたこと。

- (イ) 添附圖面中の標題及説明用文字等横書きの場合には左より始め右に終ること。
- (ロ) 圖面は成るべく其の儘縮寫し得る様トレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等に寸法及寸法線等凡て墨線にて明瞭に認むること。
- (ハ) 方眼紙に畫きたる圖面にして縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を畫き置くこと。
- (ニ) インキを使用せる圖面又は青色寫眞の類は其の儘縮寫不可能に就き避けられたること。
- (ホ) 圖面は次に示す如く縦は七寸、横は四寸五分、又は縦は七寸横は四寸五分の倍數に縮寫すべきに就き其の御心組にて御調製されたこと。

縮寫後の寸法は次圖の如くなるものとす。



尙圖中の寸法其他説明用文字等は上記寸法に縮寫したる後に於ても明瞭なる様充分なる大きさのものとすること。

- (へ) 圖面には出來得る限り梯尺  を地圖其の他必要のものには方位を記入されたきこと。
- (ト) 圖面は着色にて區別することは成るべく避け墨線にて他の符號を以て區別すること、但し已むを得ざる場合には着色數を少くされたきこと。
- (6) 講演論說報告に要する原稿及圖面調製上特に費用を要する場合には御申出あれば本會に於て之を支辨することあるべし。
- (7) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 50 部を贈呈すること。但し夫れ以上は御希望により何部にては實費にて御要求に應じ尙特に彙報欄に掲載の分に對しても同様御要求に應ずることあるべし。
- (8) 講演、論說報告には内容梗概を本文冒頭に添付されたきこと。
- (9) 原稿返却御希望の節は其の旨申出られたきこと。
- (10) 參考資料御寄稿の際には雜誌名、年號、月日を(Engineering News Record, March 9, 1922 の如く)明記すること。
- (11) 講演、論說報告に關する討議は該講演又は論說報告の掲載したる會誌より第五冊目の會誌を以て最終締切となすに就き討議御寄稿の節には御注意願ひたきこと。
- (12) 本會誌原稿締切期日は凡て奇數の月(1, 3, 5, 7, 9, 11, 月)の 15 日とす。

算式其の他の記し方大體標準

- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。
 a/b と書き $\left\{\frac{a}{b}\right\}$ を避けること、 $(a+b)/(c+d)$ と書き $\left\{\frac{a+b}{c+d}\right\}$ を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合には次の如く記すこと。
 $\frac{1}{3}x$ と書き $\left\{\frac{x}{3}\right\}$ を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$ と書き $\left\{\frac{a+b}{2}\right\}$ を避けること。
 $\frac{a}{b+c/d}$ と書き $\left\{\frac{a}{b+\frac{c}{d}}\right\}$ を避けること。 \sqrt{x} 又は $x^{\frac{1}{2}}$ と書き $\left\{\sqrt{x}\right\}$ を避けること。
 i 又は $\sqrt{-1}$ と書き $\left\{\sqrt{-1}\right\}$ を避けること。 $1/x$ 又は x^{-1} と書き $\left\{\frac{1}{x}\right\}$ を避けること。
 x^{-n} と書き $\left\{\frac{1}{x^n}\right\}$ を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53,247,000 の如く記すこと。
- (4) 名數は次の如く記し()を付たる様に書くことは避けること。
 83.4尺(八丈三尺四寸)。7吋(七吋)。35錢(三十五錢)。13.56圓(十三圓五十六錢)。12時間(十二時間)。1~4時間(一乃至四時間)。88,326噸(八萬八千三百二十六噸)。1920年12月31日(千九百二十年十二月三十一日)。54%(54ばーせんと)

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配付致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合には一部に付下記金額振替口座東京一六八二八に拂込用紙通信欄に其旨記入し請求せられたし

残 部 内 譯

第五卷一號二號	一部金壹圓
第六卷三號六號	同
第七卷一號二號三號四號	同金壹圓五拾錢
第八卷一號二號三號	同金 貳 圓
第九卷一號二號三號五六號	同金 貳 圓
第十卷一號二號三號四號五號六號	同金 貳 圓
第十一卷一號	同金 貳 圓
東京市内外交通に關する調査書	金 參 圓

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

各員の宿所の不明なるときは會誌の配付を始め其他通信上に差支條に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費の支拂には差支なき様御配慮相成たし

會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し必ず御支拂の事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立共支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に（拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事）御拂込相成度尙整理の都合有之候に付會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相成たし

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月 徴收	自五月至八月 第二期分六月 徴收	自九月至十二月 第三期分十月 徴收
會 員	金拾八圓	金六圓	金六圓	金六圓
准 員	金拾貳圓	金四圓	金四圓	金四圓
學 生 員	金七圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢

新に入會したるものは月割計算とし入會の翌月集金書を發す

會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金集金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して放なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配付をも停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御振込相成たし

會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年二月四月六月八月十月十二月（印刷又は原稿等の都合に依り翌月上旬配付の事あり）に發行し漏なく配付すべきに付翌月末迄の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月経過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配付不可能のことあるべきに付御留意相成たし

領收報告 自大正十三年十一月十六日 至大正十四年一月十五日 聞受付分 (受付順)

會員大正十一年度第三期分會費

金四圓五拾錢 清岡己九思

會員大正十一年度第一期分會費

金六圓宛 清岡己九思 山本格 金澤孝助

會員大正十二年度第二期分會費

金六圓宛 平井新六 筒井彌一

會員大正十二年度第三期分會費

金六圓宛 平井新六 山本格 筒井彌一

會員大正十三年度第一期分會費

金六圓宛 金澤孝助 吉田登 山下利兵衛
田中惠 原田碧 土屋祥三 永田兵三郎
大塚藤十郎 鈴木鹿象 石波功 本島正輔
山口秀造 橋口行彦 平井新六 長尾正元
高梨耕幣 山本格 筒井彌一 中恒直人
岩田成實 廣瀬蒼生 廣石一匡 佐伯利吉

會員大正十三年度第二期分會費

金六圓宛 田崎修 野田六次 大津道雄
田中惠 丹治經三 土屋祥敏 大島重治
野澤房敬 本間孝義 長崎芳之助 本島正輔
神原信一郎 堀越清六 淺井格 橋口賢一
後藤佐彦 大西清一 山本直人 鶴岡蒼生
寺本千太郎 筒井彌一 中垣石一 廣佐伯利
山東兵藏 木原英一 廣石一 佐伯利

金五拾錢

金四圓五拾錢

會員大正十三年度第三期分會費

金六圓宛 有元岩鶴 芦田亨介 淺見忠次
阿部美樹志 今村眞護 岩崎盾夫 磯村二水
井口鹿象 伊藤誠吉 池田圓男 石五嶽三郎
石渡功 井上二郎 石川源二 植木平之允
池邊稻生 伊藤常夫 磯海國吉 大井田治男
內田富吉 內田祥三一 大井田瑞代 小田崎昌盛
小川織次 小川梅三 大田喜全 尾岡大 三
小川英次 大窪正吉 小田川精久 加藤藤 淳夫
岡部榮一 大神秀吉 鹿島古七 北澤山 泰士
堅田務藏 掛札季 熊谷直 櫻山壯次 澤井準一

多 耶 吉 智 作 人 耶 元 助 耶 一 耶 造 覺 清 次 耶 昇 策 一 耶 耶 殺 平 樹 助 市 茂 次 吉 甫 治 一 人 採 吉 市 讓 七 一 民 耶
 義 淺 利 良 外 三 之 四 耶 一 耶 造 覺 清 次 耶 昇 策 一 耶 耶 殺 平 樹 助 市 茂 次 吉 甫 治 一 人 採 吉 市 讓 七 一 民 耶
 木 坂 葉 谷 鄉 兵 村 寅 彌 俊 太 周 慶 太 長 藤 辰 三 弘 邦 芳 八 政 彦 源 新 庫 彌 直 龍 興 信 傳 杏 定 三
 鈴 高 千 殿 東 永 中 野 濱 萩 藤 藤 丸 宮 三 武 山 吉 足 安 伊 石 大 岡 小 神 桑 小 澁 關 高 筒 中 樋 久 前 矢 吉 安 白 岡

耶 三 治 雄 義 平 耶 文 平 彦 耶 耶 造 耶 則 耶 平 胖 吉 強 助 耶 耶 彦 一 磨 一 吉 介 一 一 耶 耶 德 藏 一 助 耶 耶 彦 肅
 次 啓 平 虎 正 半 三 氏 正 行 德 一 貞 四 義 一 伊 謙 之 太 次 高 滿 重 敬 敬 橋 榮 誠 三 尙 森 貫 之 太 次 耶 肅
 英 村 川 澤 永 尾 貞 池 本 口 生 岡 內 圓 貞 一 伊 部 倍 英 壽 敬 藤 島 井 田 保 藤 賀 海 橋 和 郁 田 龍 德 定 綯
 山 須 田 太 寺 富 長 中 西 橋 橋 畑 福 堀 松 宮 三 山 山 波 安 岩 犬 小 大 龜 久 後 志 新 高 武 中 沼 東 前 山 橫 栗 石 海
 須 田 太 寺 富 長 中 西 橋 橋 畑 福 堀 松 宮 三 山 山 波 安 岩 犬 小 大 龜 久 後 志 新 高 武 中 沼 東 前 山 橫 栗 石 海

造 耶 耶 治 吉 一 耶 彦 明 耶 宜 一 透 耶 作 吉 藏 助 鏡 賢 鼎 吉 市 造 雄 文 耶 皎 祥 平 耶 吉 實 雄 耶 薰 輔 一 治 喜 吉
 博 朔 三 平 隆 謙 一 劬 嘉 次 晴 眞 三 平 國 良 之 信 久 金 倍 正 直 一 匡 孝 三 代 正 二 正 忠 茂 藤
 村 逸 英 嘉 川 根 村 倉 羽 田 忠 川 井 島 長 村 良 田 戶 川 井 藤 他 村 原 貫 藤 村 葉 口 桑 川 光 井 井 島 田 田 光 藤
 杉 田 橋 坪 利 中 中 丹 八 原 伴 古 藤 眞 宮 峰 森 山 吉 青 石 今 遠 負 岡 河 水 近 定 榛 谷 高 中 西 平 福 本 山 和 有 遠

多 樹 忠 三 耶 雄 吉 耶 衛 一 要 弘 治 作 輔 夫 耶 助 吉 馬 松 耶 市 造 耶 雄 男 助 耶 義 義 與 策 耶 雄 治 耶 隆 一 耶 耶
 鏡 茂 良 保 太 正 勢 太 廣 助 田 初 健 之 潔 太 之 惠 善 繁 三 元 耕 太 虎 忠 之 次 尙 敬 新 太 三 恒 太 正 耕 重 黍
 谷 場 邊 塚 雄 寺 伊 春 口 助 田 原 武 口 松 喜 村 木 元 篤 山 澤 榮 虎 忠 之 次 尙 敬 新 太 三 恒 太 正 耕 重 黍
 澁 關 田 遲 豐 東 中 中 野 森 原 福 藤 松 宮 溝 用 山 吉 青 秋 池 上 輿 大 川 北 久 佐 下 高 瀧 寺 中 平 深 三 山 吉 阿 內

藤三 愛宇 桑坂 田中 堀三 工關 三德 津服 春蒲 菊藤 吉塚 倉
 崎原 甲野 原口 賀川 中堀 三工 關三 德津 服春 蒲菊 藤吉 塚倉
 三久 勇保 利榮 正猪 見輪 東屋 瀨田 部木 生池 宮本 昌
 郎吉 三英 禎吉 耶市 子治 耶正 耶作 耶那 耶德 藏一 積水

金參圓
 金貳圓
 金參圓五拾錢

會員大正十四年度第一期分會費

金壹圓五拾錢
 金六圓
 高梨掛幣
 金參圓

會員大正十四年度第二期分會費

金六圓
 金四圓五拾錢宛

准員大正十一年度第三期分會費

金參圓宛

准員大正十二年度第一期分會費

金四圓宛
 東條幹雄

准員大正十二年度第二期分會費

福田 十太 郎
 溝口 三始
 池田 季苗
 大井 上雄
 久保 田正
 山東 兵繼
 高山 節藏
 筒井 丑太
 中村 秀耶
 保原 元二
 山木 新次
 今泉 茂郎
 有吉 大藏
 高木 剛三
 森田 宮弘
 雨松 常次
 長尾 方正
 野方 實吉
 根來 簡二
 堀口 勉一
 木津 正治
 安永 五三
 渡邊 時敏
 山本 甚也
 高橋 長明

佐々木 哲二
 都々木 春美
 二見 鏡三
 山本 敬敏

二見 鏡三
 大西 清郎

成田 紀

何壽 祥
 後藤 德次郎

星野 一太 郎
 茂庭 忠次
 石田 昌平
 河野 繁一
 近藤 博夫
 庄野 卷治
 丹治 永三
 德能 見喜
 村瀨 光男
 山本 亥太
 佐藤 長太
 十川 圭太
 清水 龍太
 松本 虎太
 鈴木 鹿象
 鳥取 末弘
 寺井 正義
 權島 田豐
 久保 倫太
 直木 一郎
 池田 耕郎
 高梨 信一
 神原 信一

大西 浩

神原 信一
 佐々木 哲二

小林 東

近藤 銑太郎

松永 幸一 郎
 青木 朝英
 池原 愛治
 勝又 松三
 小松 木久
 鈴高 田多
 内藤 瀨一
 廣野 熊雄
 三邊 英隆
 渡中 鷹太
 田原 喜二
 藤肥 崎正
 土宮 村七
 木福 田益
 樺池 田嘉
 廣中 屋一
 照原 田九
 楠田 九郎

渡邊 時敏

東條 幹雄

杉 俊策

金 四 圓 宛
 兒 玉 孝 藏
 近 藤 銑 太 耶
 長 澤 達 也 明
 川 澤 章 茂 勝
 近 藤 茂 勝
 金 貳 圓

何 壽 祥
 千 田 正 重
 江 守 保 平
 阿 部 雄 飛
 土 井 裕 磬
 岡 久 近 與
 齋 尾 壹 岐

成 田 紀
 武 藤 吉 治
 木 村 富 治 耶
 與 村 舜 造 人
 今 井 要

吉 田 垣
 多 田 安 三 耶
 川 島 輝 理 次 恭
 梅 津 城 朝

准員大正十二年度第三期分會費

金 四 圓 宛
 吉 田 垣
 山 中 良 樹
 高 畑 龜 之 助
 中 村 光 四 郎
 山 田 耕 三 郎
 尾 內 庄 吉 耶
 石 原 三 正 雄
 櫻 木 篤 夫 耶
 大 伊 藤 安 太 耶
 小 山 內 文 雄
 高 田 百 清
 伊 藤 中 喜 世
 清 水 橋 喜 男
 高 橋 俊 照 耶
 加 藤 聰 福 藏
 福 島 子 誠 一
 山 本 綾
 金 壹 圓
 金 貳 圓

何 壽 祥
 久 保 彌 太 耶
 彌 越 清 六 郎
 富 田 蕙 高 行
 秋 岡 良 太 耶
 西 村 正 壽 耶
 薄 井 馬 博 雄
 有 神 志 邊 俊 太
 渡 今 井 英 保
 堤 格 三 吉
 石 櫻 庭 野 潔
 牧 坂 本 昇 耶
 後 藤 德 八 耶
 川 勝 千 代 忍
 清 水 池 三 治
 齋 今 村 清

伊 藤 孝 治
 中 原 八 耶
 興 村 川 保 一
 平 企 野 廣 治
 比 小 木 誓 正 夫
 衛 藤 正 規 生
 白 坂 相 如 猪
 野 島 輝 隆 耶
 川 稻 倉 嘉 一 泉
 山 關 根 弘 初 次
 日 野 米 藤 下 石 久 田 藤 崎
 久 佐 山 大 岡 山 佐 山

成 田 紀
 黒 岩 方 治 隆
 緒 安 辰 正 猛 耶
 中 柏 田 中 保 禎 茂 三 藏
 久 岩 村 馬 尾 愛 之 進
 相 松 水 野 林 善 川 政 重 百 一
 小 德 長 木 尾 志 鈴 佐 阿
 水 小 德 長 木 尾 志 鈴 佐 阿

准員大正十三年度第一期分會費

金 四 圓 宛
 新 井 熊 市
 伊 藤 長 雄 耶
 藤 井 彌 太 耶
 北 川 延 彦 三
 小 早 川 貞 行
 富 永 高 之 輔
 小 林 員 之 輔

何 壽 祥
 田 中 勸 助
 高 知 龜 之 作
 森 下 文 通
 兒 玉 口 操
 樋 內 滿 三
 堀 合 虎 馬 二

川 本 暉 二
 御 田 龍 太 耶
 高 橋 經 德 次
 市 川 芳 秀 雄
 士 岐 林 東 耶
 小 田 三 吉 耶
 山 尾 內 庄 吉 耶

成 田 紀
 野 村 良 雄
 藤 木 下 武
 野 矢 崎 清
 藤 崎 五 耶
 小 木 曾 尙 夫
 稗 方 正 男

岩橋茂藏	村田三耶	高橋幸藏	水谷佐七
後藤一三	長谷川教一耶	柴田橋直光	諸岡田明隆
加藤藤一	志金子内子	本阿部鬼秀飛	稻關兵村菊大
新井根清	伊藤林山	丸川齊坂堀今八川岩	兵村菊大武山松極廣
小石川清	小鷺高矢後鈴佐花遠喜小		村菊大武山松極廣
高庭謙一			大武山松極廣
櫻口藤田亥			武山松極廣
牧加高岩田西			山松極廣
野岡壹小			松極廣
金貳野岡壹小			極廣
金參圓五拾錢			廣

准員大正十三年度第二期分會費

金四圓	何大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	高橋幸藏	中寺川一美
川本善彌保辰四	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	遠成佐黑小野井武安瀨中美山野林神相佐	寺新野伊櫻萩野北高小有久薄山高津竹本
村宮木野島	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	藤田藤岩山口上藤部田川野下坂	井村藤井野矢嘉惣靜米讀
篠鈴天長森堀粟山藤池野岩村後長鎌	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	山口上藤部田川野下坂	井野矢嘉惣靜米讀
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	田藤岩山口上藤部田川野下坂	野矢嘉惣靜米讀
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	山口上藤部田川野下坂	矢嘉惣靜米讀
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	上藤部田川野下坂	嘉惣靜米讀
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	藤部田川野下坂	惣靜米讀
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	部田川野下坂	靜米讀
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	田川野下坂	米讀
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	川野下坂	讀
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	野下坂	
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	下坂	
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志	坂	
	大森吉內太長相松中高江堀中川水吉權志		

正雄吉知耶次久基平雄耶一耶夫實進中讓已進吉義治亮耶衛要重治德彦耶藏登三雄一之
 晃義興太三男正讓矢久三貞二民牛藤勝英齊昌金正豐經熊四金幸米熊精壯
 村幕藤水好川橋井西田征龜伊岸木藤藤洲谷成保坂池治々木內保來田入橋中高金嘉山田壯
 木小佐清杉瀬高坪中沼廣山山青伊伊浮菅川紀久兒小小境佐坂佐神進千鼠高田武田富中中西原

夫耶治平市美一雄樹輔雄敏耶美耶夫一信市輔基作總儷耶茂耶二治道耶雄治雄陽耶一積昌吉
 博一萬久文廣貞秀茂滿川範三弘雅一正富俊祐孝季三辰善賴秀太龍菊猛等吉十井三竹幸之
 村信島藤浦川田葉良村谷澤常林藤井野合井川藤澤藤小森島上勝寺訪寺馬橋橋橋中光井田本谷川
 木小小齋杉助高千奈中長廣安若伊石上河川岸工黑後小金蛟坂最清諏善相高高高田年中鍋西長
 谷川

亮治夫衛吉耶也二行平人眷耶夫耶耶到三耶一衛夫雄夫正耶造耶雄實介祐助雲重耶武耶卯
 經陸泰守新次達敬高茂正爲一已三治耶出次友斧幸龍兼義新一銳一角信正謙之紫太勝卯
 山田藤宮水山尾桑永木瀨木倉田松藤木格辰日原藤藤坂藤谷島道木根津島下木所屋瀨名上
 上熊近三清陶澗高富仁野平山柳赤伊植堤管岸久栗近後香佐猿笹志鈴關管高高竹高外長成新野

吉輔登吉猛耶夫吉治一如雄爾太俊聚富一吉彦茂耶惠耶雄三夫治吉夫治造孝一吉一耶助武耶八
 萬良午富太富守勝相武莞藤正政留延四一次佐庄葉清才毅長新賴俊長茂勝鑿原政利
 戶原藤島村木佳岡山坂比崎野立藤田老上川藤宮林榮山藤部藤松山木谷田村中茂勝鑿原政利
 河栗後蛟下鈴關武鶴中野日山矢足伊上海川北工黑小小齋坂佐重杉鈴關岡竹田谷千富中中西

濱馬日村山綿安江喜近坂鈴杉立田田富中西曳武山相内川小齋白關高仲永沼濱渡有池菊櫻高辻
 田揚岡瀬崎貫食崎多藤元木山花吹鳥澤川原地澤田澤林田出藤石目木木田波田邊川乙池井杉富
 文豐長吉亮保高義一三馬秀鏡仁行豊次脩太源正一達耕太英鐵季敏利之瀧陽彦米次三英三之
 路藏明雄三一德人司耶太彦介吉男吉潔耶三耶一二馬一吉耶夫藏靜雄夫助松三松男耶吉記耶助
 二藏明雄三一德人司耶太彦介吉男吉潔耶三耶一二馬一吉耶夫藏靜雄夫助松三松男耶吉記耶助

服部岡山柳大阿衛久小佐楳瀬竹谷高富中服兵深山伊梅河小笹活田田仲永花一渡足江小下高友
 部宮之與正茂雄正政直常義常源寅山垣部藤川下藤本原泉外水淵中山井井色邊立江小下高友
 保一助藏哉市飛規茂喜次治輔八八三進巖一吉耶德治吉耶造耶雄耶浩治路一彌耶清一耶平介

速水龍五耶
 廣龍常雄
 平野清益一二耶
 山田懸久愛香政吉好雄德耶吉一作兼耶名游一榮惠二耶靖吉市吉三雄部雄輔葦均司親一夫
 武原野藤藤龍良次庄隆庄在四正守作三源甚惣新寅俊民芳幸秀靜信元秀
 後佐鈴關高田常知永長樋福遠五總倉櫻志杉高武中内原山渡青草佐白高長

速日深柳山阿字錄小佐菅菅副田武富南西原福柳阿砂金小坂白鈴田永長中幡吉藤伊熊佐鈴寺根
 水野谷木田部田田岩藤原島中順田保澤田士部治久保田石木中尾野鎌川枝藏木藤島岸
 隆弘市新北一健二銚春石清正善寅次正忠三武一國佐小治不康之昌太俊至菊次代欽琢耕
 三之耶助男耶耶一治藏吉志雄男耶通二耶耶一耶良七耶人生保朝助平耶次道治耶司治茂治司

乾雄磯吉勇雄丸鹿一平介道甫己耳助三郎武通郎造介一次治吉一力一夫松二明元治寬治耶門
 瀨熊鶴利若伍貫林來正誠之逸藤正七辰誠正平種義不彥戒守增康保賢吉右衛門
 廣清水藤井山川田部田十嵐木藤川龍崎浦玉井誠中田島井浦井浦藤田井越江畑田吉
 廣清叶工櫻杉聖富細阿池五宇遠小折岡小野澤兒小櫻杉田田寺中西平松松增箕武山橫吉入漆小畑

耶一藏喬束一藏藏治夫作耶治門藏最雄吉夫綏夫耶一雄介治衛一豐磐次耶七太郎弘三清耶雄
 太憲米村誠代福福秀金一英右衛門孝靜林久通文三志光泰竹兵總正太佐政二俊治三耶文
 仲藤藤多林原千福福藤準五右衛門孝靜林久通文三志光泰竹兵總正太佐政二俊治三耶文
 原後加喜小篠鈴富平安青岩上遠藤佐五右衛門孝靜林久通文三志光泰竹兵總正太佐政二俊治三耶文

耶武治治己吉耶耶耶輔耶助一美耶夫治耶輔耶一耶治次耶三弘雄彰市人治貫一耶也智耶二男耶
 太明董克乙太三毅仁一之篤真次稻治政金傑太敬一誠尙辰正次勝六哲次一
 道木田本藤水廣定川像岡田老野木島部山壽林雜木野田生場木下野浦山本田邊崎野田
 林村大岸後清鈴德長谷宗赤池內海小櫻尾岡加笠小佐鈴關高恒戶丹馬藤松松三村森山吉渡石海太

耶三紀長治七彥源次介耶義輔達助治夫稔耶雄晉六耶三廣耶久耶耶三一治耶雄治勇亟耶助市
 一省清輝秀信文政亮隆三重友大基民重達健久一與田嘉重三悅清三悅孝太三虎謙之次之與
 孝野部川鬼藤森坊川隅木倉宮垣石原田古口山島賀水田葉田長口掛山浦田浦司野山金萬新合
 中野部川鬼藤森坊川隅木倉宮垣石原田古口山島賀水田葉田長口掛山浦田浦司野山金萬新合
 野平阿桂九佐杉大中眞青板一字大狹大尾川鏡小古清杉高千德中野藤丸松水三門矢橫若今內落

大勝小齋柴田坪林比福本松三森吉岩大柏菊小齋柴鋤富西長藤福堀松三諸山矢生上岡奥河菊
 島呂林尾田島非企野鹿惣下瀨田崎木谷池原藤田柄家畑田留越山島本野島山村端池
 太正紫壹直正壹士廣福五太直清四綯彌外鴻池光甚直小欣松次正知修三織鷹俊隆次郎造耶清
 耶吾朗岐道彦彦耶治藏耶耶茂夫耶二耶耶芳信治光一吾常枝雄鹿三巖藏耶太雄男次耶造耶清

梶加後佐下高長林久藤本增町向山渡今太加北小左重田中乘林古堀堀松水矢山吉乾大大近川小
 原藤土浦崎鄉將恒原多田田非口部井田三宮盛富邊村田川田浦谷欣市野竹藤澤山
 雄一清勳清耶二治廣七吉實耶助清平稔耶助三耶潔貢廣平彰三東夫秋治耶一一耶耶八次明雄
 景會最次衛將孫末政太圭好田三益一小邊廉昌淳伴威康一四廣吾太治耶三章良
 原與藤原常鄉恒原多田田非口部井田三宮盛富邊村田川田浦谷欣市野竹藤澤山

片木郡櫻鈴田中花藤藤松三村山阿石小片桑近志住田中原葵藤堀堀丸三山矢橫磯伊大木貝笹
 關新一哲英利敏秀弘謙八四三依三岩新一郎芳治直靈爭清淺琢力多忠太元清磯肆源次護五
 桂十郎三二男耶直一耶耶平八耶耶二元樹耶道秀造球輔吉而熊吉作耶輔濟治七耶八耶時耶
 關新一哲英利敏秀弘謙八四三依三岩新一郎芳治直靈爭清淺琢力多忠太元清磯肆源次護五

片熊坂清須高濱原藤別增松味森山稻大岡金小酒重鈴高西原福藤堀丸三守山山阿梅大太金木佐
 山岡明喜正善五太勝啓三之伊瑛親德葉綠部守室井木坂本綱田井尾山橋山口八洲清保好武
 一真榮男雄藏耶耶見濱耶吉稔泰衛吉吉耶雄一勇藏次支二輔夫三耶治之市繁三耶次藏壽助助三

勤衛義吉治行二吉文光一耶耶博毅三耶市耶藏治修也清彦治龍雄壇二耶次了鐵作六昇藏一耶一
 野口末武正準常政登治太弘正次盛白藤中矢田藤尾東藤崎大原庭水村原江喜誠二外
 中野口田村田原梨藤田聰島永本達田川布藤中矢田藤尾東藤崎大原庭水村原江喜誠二外
 田中野牧山今太川木近島仲福松南山米岩小久齋田野福武懿伊遠大小桑木清中萩溝與有上武

志介能雄良坦耶藏耶輔助志藏一昭作亟一男耶耶吉彦三雄治信男耶耶人彦耶耶雄隆市誠三
 代耿增義至四耶子之代善宅上文之清七太次清直喜俊亮英一厚基時太幸胤熊要
 喜沢島鼻藤竹庚員松初上下仙六亮淺木見尾田馬研方橋賀內精清村見非水野
 中澤島鼻藤竹庚員松初上下仙六亮淺木見尾田馬研方橋賀內精清村見非水野
 田戶禰松森安荻川金小高田久松三森吉伊大輿梶塩鈴新平松米有上楮大木古志塚野松吉新確河

市吾耶義賢甲實耶研耶時一吉堆亮耶衛道吉耶雄耶憲年彦喜造二耶吾一耶耶親穗民三次耶三耶
 佐傳四尙邊田穿村權竄寬洋愛次直義長六信節國正恒繁恒太金忠榮鈍壽瑞清昭鐵止亥一
 尾光尙邊田穿村權竄寬洋愛次直義長六信節國正恒繁恒太金忠榮鈍壽瑞清昭鐵止亥一
 田多村見邊田穿村權竄寬洋愛次直義長六信節國正恒繁恒太金忠榮鈍壽瑞清昭鐵止亥一
 下富中逸蘇渡岡金北喜武染中松森山渡越與片小篠永濱藤山新泉大大片近志田西藤森新井大

耶耶次肅一守耶耶雄耶英五三一藏夫耶介信良信水真一一等吾藏雄友一二市耶一男吉雄武
 次一金齋鏡太八一耶耶雄耶英五三一藏夫耶介信良信水真一一等吾藏雄友一二市耶一男吉雄武
 東鋼尾本谷村專治要象次重圭滿修光輝次無正幸與秀直靈爲富兼亮貞與太義末米正
 藤桑尾本谷村專治要象次重圭滿修光輝次無正幸與秀直靈爲富兼亮貞與太義末米正
 佐高長濱水吉岡河加清王鈴長堀松名山和宇大楠佐長八木山津岩江小小古山下中平村吉井內

陳發榛
 澤田梅耶
 尾形銀助
 石松彌四
 山川口惣一
 廣瀨田榮次
 山村平敬助
 尾谷崎義廣
 柳柴博明
 新市井川九
 木直富太
 増谷照悠
 樹井藤豐
 安淺井郁爾
 石井林次
 小岡恒夫
 河合水毅
 浩田本貞
 宮坂孫八
 森邊源三
 渡部謙喜
 磯田中友
 竹福宮木保
 山吉丸好
 三笠山川
 姉大平

長谷川貞三
 飯田龍左衛門
 欠賀部介
 横田友稔
 森田中種
 田中川正
 陸森岡耕
 有橋光正
 八木敬
 淺野末
 有垣見恒
 春藤森宇
 福前美野
 柴秋山喜
 井大石越
 大北田部
 田穂御島
 八林川紀
 市伊賀水
 高中西幸
 森八尋
 川岩越
 小內淺田平

與名木文爾
 士岐秀雄
 加藤藤聰耶
 鈴木喜一
 伊深真平
 福部武三
 阿原重長
 前緒方石辰
 緒白川敬
 白來和粟田
 粟市川益
 河邊義治
 菅井崎兼
 藤松鹿德
 森岡桂敬
 金井上尾
 若太智
 越木代嘉
 德永軍
 正水善
 村上善一
 山後藤辰
 井上富
 木村谷
 戸原田
 前湯原
 森川
 守屋應
 瀧木英
 白川島輝

粟岡薰
 鈴水敏
 小岩林庄
 今泉亥重
 東田昇太
 山田木七
 右荒木多
 荒中村一
 山田井孫
 新伊川山清
 小武居軍次
 藤田正
 松崎志計
 森見善
 淺上野準
 井磯大木延
 大柏小原城
 原芳
 馬武若吉
 若市小內
 小藤岡
 藤岡森
 荒井橋
 荒大川
 荒木川戶

治助清
 重太耶
 七多馬
 一造
 孫重治
 清次良
 正美
 志計理
 善進洋
 延辰末
 芳男
 於邪菟
 義純一
 田保安
 岡明德
 森賞三
 荒安太
 荒大惠
 荒木川義

學生員大正十二年度第二期分會費

金貳圓五拾錢宛	松尾春雄	湯山熊雄	平尾勝
三好武夫	岩崎瑩吉	濱地辰助	今井周
田中敬二	兒島重次郎	立家正治	岡野幸三郎
五十子恭三	花島義一	末松榮	石井彌壽一
金六拾貳錢宛	富澤精司	三村賴治郎	

學生員大正十二年度第三期分會費

金貳圓五拾錢宛	小堀豐作	松尾春雄	湯山熊雄
平尾勝	岡田正一	石井多三	櫻井季男
中川達	石井孝	今井周一	野口誠
兒島重次郎	小林佐一	内山祥一	北澤貞吉
田代博雄	立家正治	吉森憲一	松田俊正
古市千太郎	石井彌壽一		
金壹圓八拾七錢	佐藤宇三郎		

學生員大正十三年度第一期分會費

金貳圓五拾錢宛	松尾春雄	平尾勝	佐藤宇三郎
三好武夫	岩崎瑩吉	鈴木直彦	濱地辰助
重森幹之助	櫻井季男	沼田征矢雄	今井周
菊池明	新郷高二	今泉佳三郎	土田喜三次
片岡謙	兒島重次郎	堀越一三	北澤貞吉
吉森憲一	松田俊正	五十子恭三	桃田喜一
花島義一	三村賴治郎	廣瀬榮次郎	石井彌壽一
張昌熙			
金六拾貳錢宛	黒田呂久三	高敏耶	中山光治

學生員大正十三年度第二期分會費

金貳圓五拾錢宛	小堀豐作	湯山熊雄	平尾勝
佐藤宇三郎	三好武夫	日笠育夫	澤田猛士
濱地辰助	重森幹之助	川上錫夫	岡野幸三郎
岩崎二郎	高敏耶	中川達	今井周
新郷高一	今泉佳三郎	土田喜三次	山本英俊
片岡謙	田中敬二	小林幸治	村上正雄
小林佐一	中山光治	内山祥一	堀越一三
柴崎雷次郎	立家正治	松田俊正	富澤精司
五十子恭三	桃田喜一	花島義一	末松榮
門澤利三	石井彌壽一		
金六拾貳錢	岡田倍治		
金壹圓貳拾五錢宛	直山實	芝谷常吉	辰村國治
松村孫治	磯谷道一	山崎桂一	
金壹圓八拾七錢宛	福島三七治	田中民夫	宮村茂雄
沼田征矢雄	坂本雅雄	山本幸夫	杉戸清次
平井彌之助	大川一	福西正雄	中明宅

町田 保 宮越 義重

學生員大正十三年度第三期分會費

金貳圓五拾錢宛

佐藤 字三 郎
 大川 一 郎
 石賀 茂 夫
 櫻井 季 男
 山本 英俊 俊
 川上 陽 夫
 岡田 四 郎
 村山 正 雄
 富澤 精 司
 宮越 義重 重
 永後 熊次 郎
 町田 保 保
 澤田 猛 士
 家根 內 義
 水原 譽 文
 田中 菊 知
 田中 民 夫
 小川 悅 助
 小泉 正 己
 小林 佐 一
 高橋 佐 一
 內川 龍 雄

黑田 呂久三 郎
 古市 千太 郎
 村上 優 夫
 山田 忠 夫
 平井 寬 寛
 小山 猛 雄
 小齋 藤 鼎
 阿部 鐵 藏
 津路 嘉 魁
 岡野 幸三 郎
 渡部 彌 作
 中川 達 一
 岡田 正 夫
 若原 政 武
 福田 村 茂
 宮賀 光 三
 多川 謙 二
 雄岩 崎 二
 高凌 美 三
 堀越 一 三
 岡村 増 次 郎

森 俊 夫
 目黒 清 雄
 藤井 雄之助 助
 田代 博 雄
 富田 龍一 郎
 山口 直 樹
 樋田 廣 正
 石井 多 三
 佐野 俊 男
 室川 與 一
 佐野 太 一
 小田 金 治
 白鳥 啓 吾
 渡邊 儀 一
 綿貫 田 章
 堀村 頼 治
 三井 上 秀
 藤井 莊 夫
 片岡 謙 介
 柴崎 普 次
 花鳥 義 一

平尾 勝 治
 松村 孫三 郎
 平手 三 郎
 龜田 素 郎
 松田 勘次 郎
 岡部 三 郎
 岡田 喜 一
 清水 竹 夫
 中島 忠 次
 田村 庄 次
 立家 正 治
 三輪 寛 治
 齋藤 祐 之
 長谷川 六 三
 宮川 貞 二
 安倉 安 範
 太田 哲 夫
 津下 修 一
 島崎 亮 吉
 石井 彌 壽
 平井 彌 之
 北松 友 養

金六拾貳錢

日笠 育 夫

學生員大正十四年度第一期分會費

金貳圓五拾錢

黑田 呂久三

土木學會誌第十一卷第一號
(LIAO RIVER UNDER INTERNATIONAL ORGANIZATION
& SHWANGTAITZU WEIR AND LOCK.)

正 誤 表

Page.	Line.	Error.	Correction
161 or 1	3	to dispel stout local oppositions	to dispel stout local oppositions
162 or 2	6	The above.....silt observed.	The above.....silt observed at Erh-tao-chiao.
"	29	(see contract plan no. 4.)	(see contract plan No. 3.)
163 or 3	24	according circumstances	according to circumstances
"	26	at Tan-chia-wo-pu present worst	at Tan-chia-wo-pu of the present worst
"	27	to take back to much water	to take back as much water
"		# Add one line after the word- The end.	For specification turn to Page 191.
193 or 3	19	3. General Stipulations sa to Work.	3. General Stipulations as to Works.
198 or 8	9	draining, fencing,	draining, fencing,
199 or 9	3	by means of installed on the iron winches girders	by means of winches installed on the iron girders
"	4	ways.	ways. (See contract plan No. 3.)
"	8	their lower edges lie	their lower edges lie
"	20	lation.	lation. (See contract plan No. 4)
200 or 10	24	to the entire satis Faction	to the entire satisfaction
201 or 11	2	Words importing	Words importing
201 or 11	7- 8	, safe, expeditions, and	, safe, expeditions, and
"	3	, and vice versa.	, and vice versa.
202 or 12	19-20	2-At least 2 deck pumps....auxi- liary dsming machinery.	2-At least 2 deck pumps....auxiliary pumping machinery.
"	29	Paraffin Arc Lamps or night wor- king,	Paraffin Arc Lamps for night wor- king
203 or 13	25-26	ill-se soned, defective, of inferior quantity,, and also to requ re	ill-seasoned, defective, of inferior quality,, and also to require
204 or 14	8	by the Board consequence of	by the Board in consequence of
"	11	and the value costs and damage shall deducted	and the value of costs and damage shall be deducted
"	16	the Engineer-in-Chiefm ay	the Engineer-in-Chief may
"	35	terms of this Specification,	terms of this Specification,
205 or 15	5	quantitg and nature	quantity and nature
"	6	the quantity or	the quantity of
"	17	no information any such	no information on any such
207 or 17	3	insufficient	insufficiency
"	14-15	any moneys due from the Con- tractor	any moneys due from the Board to the Contractor
"	20	In case of frost of	In case of frost or
208 or 18	7	, as aforeside,	, as aforesaid,

Page.	Line.	Error.	Correction.
210 or 20	21	ever and above	over and above
214 or 24	8	to delay such damages,	to defray such damages,
216 or 26	8- 9	the Contractor,	the Contractor,
"	19	same may be	same may be
217 or 27	23	Conservancy this Receipt day of _____	Conservancy this day of Receipt _____
219 or 29	11	not be set asids, . . . to be set asids,	not be set aside. . . . to be set aside,
"	25	property submitted	properly submitted
220 or 3)	23	GENERAL STIPULATIONS AS TO WORK.	GENERAL STIPULATIONS AS TO WORKS.
"	26	are intended to apply to apply to the extra	are intended to apply to the extra
222 or 32	9	(c) The embankment A. B. &	(C) The embankments A. B. &
"	12	and the bank protection	and the bank protection
"	15	to the pepths and	to the depths and
"	16	materials piled on the	materials piled on the
223 or 33	1- 4	Constructor to dsposit all Surplus Materials	Contractor to deposit all Surplus Materials
"	10	must be again protcted	must be again protected
225 or 35	9	excavation cauced by the	excavation caused by the
227 or 37	14-15	Rejection of Consignment.	Rejection of Consignment.
228 or 38	9	Passing through No. 5 sieve. . . .	Passing through No. 50 sieve. . . .
229 or 39	9	Passing in. sieve	Passing 1 in. sieve
"	26	(one gab or $\frac{1}{4}$ lbs.)	(one bag or $\frac{1}{4}$ bbl.)
233 or 43	6	45. Exposeds urfaces	45. Exposed surfaces
"	24	stone than 1 ft.	stone than 1/2 ft.
234 or 44	24	The bott m doors	The bottom doors
235 or 45	3	Lumber ones used	Lumber ones used
"	7	flaming and	framing and
"	16	Wier ties will be	Wire ties will be
"	21	to prevent bulg-	to prevent bulg-
"	31	, and on the inside if shall,	, and on the inside it shall,
236 or 46	15	uneven surface if shall	uneven surface it shall
237 or 47	13	sions indcated on the	sions indicated on the
238 or 48	23	for the same purposed	for the same purpose
"	26	Driring of Sheet piles.	Driving of Sheet piles.
239 or 49	6	All piles shal.	All piles shall
241 or 51	14-15	Form of proposal of do hereby propose to make	FORM OF PROPOSAL. do hereby propose to of make
"	32	to execu'e a Contract	to execute a Contract
242 or 52	21-22	# Erase WHEREAS THE BOARD	
243 or 53	2- 3	hereto, and and Contractor and	hereto, and the Contractors, and
243 or 53	25	in the said Tender	in the said Tender
"	30	reference of and matter	reference of any matter
245 or 55	19	from).	form).
246 or 56	17	laying (large	laying (larger
246 or 56	21	(exclusive of from	(exclusive of form
247 or 57	19	Deck pumps	Deck pumps



日下部辨二郎

土木學會會長

工學博士 日下部 辨二郎 君



故土木學會會長
工學博士 中島銳治君

故工學博士 中島銳治君略歴

君は仙臺青葉城下木町通中島仲氏の二男、安政五年十月十二日父祖の家に生る。明治十年七月宮城英語學校を卒へ笈を負ふて東都に遊ひ東京大學豫備門を経て東京大學理學部に進み、十六年七月土木工學科を卒業して理學士となる。同月理學部助教授を命せられ、次て十九年三月工科大学助教授に任せらる、二十年六月文部省より簡拔せられて海外留學を命せられ初め一年は米國に於てワデル博士の下に吉村長策君と共に橋梁學を修め後古市博士の勸誘により衛生工學專攻に轉し學理實地兼修めて英國に轉學、次いて佛蘭西、和蘭、獨逸に遊學し、斯學の蘊奧を極め在留中羅馬給水法を調査して大學へ報告する所あり。海外に在しりしこと四箇年の久しきに亘る。

之より先き、東京市に於て市水道の不完全にして衛生上看過すへからざるを認め、之か一大改良を斷行せんとするの議あり。時の内務省土木局長古市博士此計畫に執掌せられたるが前例なき此大事業を托するは君を措いて人無しとせられ、内命により留學期間を促めて二十三年十一月歸朝、次で二十四年三月内務省技師試補を命せらる。市區改正委員會の成案は淨水工場を千駄ヶ谷村に設置するものなりしか君は地勢其他諸種の狀況を詳細に調査したる結果、淀橋町を以て最も適當なる位置とし、之か變更の意見を上申して採用せられる。即ち今の淀橋淨水場之なり。位置其所を得たる爲め水源に於ける各種の池の築造に當り盛土工事を要せず従て施工及び保存上に危険の慮なく、又高臺を占めたるを以て配水に要する唧筒力を減少し、之に依り動力費を節するを得る等其利尠少ならず。

二十四年十月東京市水道技師を命せられ、古市博士の下に全般の設計及び工事施工を監督し、古市博士退任後は工事長として其の任に當り、二十五年十二月工事を起し、六箇年の星霜を経て三十一年十一月一部通水を見、三十二年十二月工事完了す。本工事は實に本邦最初の大工事にして其施工に當り従事すへき經驗ある技術者は其數極めて少く加ふるに熟練せる職工は之を得るに途なく、起工の後是等の職工を養成すへき必要あり、其他諸種の困難ありしにも拘らず孜孜として經營の任に當り期を誤らず通水するを得、而かも竣工後約三十年を經過せる今日に於て各部に大なる缺點の生せざるは其工事の堅實なりしに依る處にして一大成功と謂はざるへからず。

二十九年九月帝國大學工科大学教授に任せられ、三十年七月内務技師を兼任し公許を得て東京市囑托技師となる、三十一年十二月更に東京市技師長として水道工事を始め、市土木事業一般の經營及設計監督の任に當られ、同年

宮内省の命に依り宮城内の水道設備をして全く市と獨立して給水し得らるゝ計畫を立て工事實施に際してはその監督の任に當り大正三年其工を竣る。

三十二年三月工學博士の學位を授けらる。同年七月東京市區改正臨時委員、中央衛生會委員を仰付られ、同九月逡信省電氣事業取締に關する事項調査を囑託さる。三十四年一月宮内省より東宮御所御造營給水及排水工事の設計及監督を囑託され、同年二月東京市水道誌編纂委員を命せらる。

同年七月市事業取調の爲め歐米各國に出張を命せられ、同十月北米合衆國エール大學創立第二百年祝典執行に參列し、在米中米國水道協會名譽會員に推され翌三十五年七月歸朝す。

三十六年二月第五回内國勸業博覽會審査委員を仰付らる。三十七年二月東京市區改正委員會に於て下水道改良計畫を議決さるゝや、其調査及設計を擧げて君に囑託せられたるか、當時調査に要する諸種の資料充分ならず、特に市内土地の高低等其調査なきを以て約一箇年半の日數を實測に費し、且つ諸種の重要事項を詳査して設計々畫を立て、四十年三月纔に其計畫を完成せり。之が設計に基き東京市下水施設調査會を組織し、君を其顧問に推し四十四年九月第一着手として下谷、淺草方面の工事を起し、爾來十餘年を経て大正十一年其の竣功を告げ、茲に本邦最初の下水處分工場の完成を見るに至れり。本下水工事は常に規模の廣大なるのみならず、本邦最初の事業に屬し海外各國に其例乏しからすと雖、氣候、生活其他諸種の情況の異なる本邦に於て直に採用すること能はず其苦心以て察すべき也。

三十七年六月東京商業會議所特別議員を命せらる。三十九年十月東京市技師長を辭す。君か多年市諸般の工事を統督し就中水道工事を完成したる功を多とし東京市會の議決を以て表彰する所あり。四十年四月大韓帝國政府の囑託を受け平壤、仁川、釜山各地の水道工事を監督し、四十四年三月完了、韓國勳二等に叙し大極章の贈與あり。又南滿鐵道撫順に於ける水道及び清國營口、漢口等の水道調査を託せらる。四十二年東京市水道擴張の必要起り、市區改正委員會は其擴張計畫全部を亦君に囑託す。君は更に諸種の方法を蒐集し慎重なる研究推理の結果主要水源を多摩川に取り、一大貯水池を設備する計畫を立て、四十四年十二月設計を完了す。大正二年十二月其工事に着手するや其工事顧問を託せられ大正十三年第一期工事を竣功せり。

大正七年六月都市計畫調査會委員、同九年三月都市計畫地方委員會委員を仰付らる。大正十年二月願に依り。帝國大學教授兼内務技師を免せられ同年十二月勅旨を以て東京帝國大學名譽教授の名稱を授けらる。君は在官中歴進して大正二年六月高等官一等に陞敘し、八年二月勳二等に敘し瑞寶章を授け

られ、次て十年二月正三位に叙せられ、後十三年更に多年水道事業に關する功勞に依り旭日章を授けらる。

明治三十年内務技師に兼任せられたる以來同省にありて専ら各地水道工事の審査及監督を擔任せられ、此間水道事業として君の手を煩げさざるものなく退官後と雖猶市或は町村の囑託を受けて水道の設計々畫及施工の監督の任に當られたるもの枚擧に遑あらず。其中主なるものを擧ぐれば宮城内水道及東宮御所、宮の下御用邸水道を初め、東京市上下水道及同擴張工事、仙臺市上下水道、名古屋市上下水道、八幡製鐵所、高崎市、鹽釜町、山形縣谷地町、小樽市、室蘭製鐵所、松江市、高松市、鹿兒島市、澁谷町、上田市、長崎市水道擴張工事、徳島市、江戸川上水町村組合、福島市、秋田市水道擴張工事、津市、長岡市等の各上水道工事、東京帝國大學、日本銀行、東京停車場構内、第一生命相互株式會社等の給水及排水工事、信州善光寺防火水道工事なり。尙未だ起工せざるも其設計々畫の完了せるは、飯坂町、橋樹水道、明石市、甲府市水道擴張工事、前橋市、桐生市、松江市水道擴張工事、荒玉水道、八王子市、鶴見潮田組合及熱海水道擴張工事等にして、前後四十有餘年専心水道事業を研究して亦他を顧みず。本邦に於ける水道事業の發達は實に君の力に由るものと云ふへし。

君は其事業を計畫するに當り思慮緻密、用意周到にして、萬全を期せらるゝは言を俟たざる處なるか特に東京市及接續せる近郊に於ける水道は最も意を用ひられたる所にして、其既に竣工せる澁谷町水道、工事中の江戸川水道及設計を了り近く起工せんとする荒玉水道の如き、其細部に至るまで親しく詳細に調査を指導する所也。

元來東京市水道は其規模に於てロンドン、ニューヨーク等に次ぎ人口及給水量より見るに世界中第三、四位にあり。今や其第一期の擴張工事を了り、之に近郊水道の完成され、大都市計畫の下に之等を併合統一せる水道とする時は益々世界に誇るべき事業と云ふを得べく、君か此水道系統に専ら意を用ひられたるも亦宜なりと云ふへし。

君資性溫厚着實にして特に清廉を尊ひ、頭腦明晰學識豊富にして土木界の一大權威たり。斯界を指導し又能く部下、後進を愛撫し、其誘掖指導に依り博士たり、學士たるもの、或は又實歴を以て斯界に活動するもの頗る多し。

本年一月推されて土木學會會長となる。君近年に至りて常に言あり、「壯年時の事業は假令多少の缺點あるも之を發見するとき自ら之を改善修補をなし得るも、老後の事業は自ら之を改むるの餘日なきを以て勉めて缺點なからしむる事を期す」と、此誠意實に君か關係せられたる事業の全生命たり。

君往年腎臓を患ひ其後の自重、攝養は能く近時の健康を得られたれば今後尙幾多の春秋を期待せしに本年二月十六日鶴見町水道調査より歸宅せられ毫も平生と異なる所なかりしに、同日午後八時腦溢血の爲め卒倒され、翌十七日午後九時十五分遂に起たす。二十一日永訣を行ひ、小石川護國寺の墓域に葬る。其前日勅使差遣せられ幣帛を賜り、送葬當日は各學會を初め知名紳士の來弔識るが如し。君の榮譽又大なりと云ふへし。夫人なか子は故醫學博士田口和美氏の女、二男四女あり長男は夭折し、嗣子清夫氏今東京帝國大學法學部に在り、長女は工學士森忠藏氏に嫁し、次女は醫學士氏家信氏に嫁し、他は今尙家に在り。